

調査方法

湖岸の砂浜におけるマイクロプラスチック調査について、会場の事前下見、予行演習を経て、独自の手順書を作成し、それに基づいて調査を行った。

<使用備品>

- ・ふるい粗目（網目が約 5 mm）
- ・ふるい細目（網目が約 2 mm）
- ・チリトリ
- ・たらい
- ・バット
- ・ピンセット

<調査手順>

- 1) 予めたらいに水を汲んでおく。
- 2) 「ふるい粗目」を逆さにして砂に埋め込む。
- 3) 埋め込んだ「ふるい」の底の部分にフタをするようにチリトリを差し込む。
- 4) チリトリと「ふるい」を両手で押さえながら砂から引き上げる。
- 5) たらいの上で、「ふるい粗目」で砂をふるう。
- 6) 「ふるい粗目」に残った石などの中から、プラスチックを見つけたらバットに取る。
- 7) たらいの底に沈んでいる砂をかき混ぜて、砂に埋もれている MP を浮かせながら、たらいの水を少しずつこぼして「ふるい細目」で受ける。
- 8) (会場に移動して)「ふるい細目」に残った砂などの中から MP を探してバットに取り出す。



調査結果

	班名	すくった回数	見つけたMPの数	平均
大津会場	1	4	63	ふるいですくった 1回あたり MP 5.7個 1㎡あたり MP 250個
	R1	3	28	
	2	4	48	
	R2	4	11	
	3	4	21	
	R3	4	12	
	4	4	10	
	R4	4	21	
	5	6	17	
	R5	5	9	
	合計	42	240	

	班名	すくった回数	見つけたMPの数	平均
近江八幡会場	1	5	33	ふるい1回あたり MP 2.1個 1㎡あたり MP 92個
	2	11	19	
	3	11	11	
	4	10	6	
	5	4	18	
	合計	41	87	

各会場とも参加した小学生を4～5人の班に分けて、班ごとに調査し、記録を取った。

	班名	すくった回数	見つけたMPの数	平均
彦根会場	1	5	10	ふるい1回あたり MP 1.9個 1㎡あたり MP 84個
	2	8	23	
	3	5	3	
	4	5	8	
	5	4	7	
	合計	27	51	

※ふるいの直径17cm 1回あたりの調査面積：227cm² (0.0227m²)



学習会の内容

各会場とも、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター専門研究員の佐藤祐一さんを講師に招いた。

1. 全体会 講師紹介、プログラム説明、調査票の書き方の説明等
2. 班別作業 マイクロプラスチックを見つけて、調査票に色・サイズ等を記入
3. 全体会 1班から順に前に出て、調査の場所、見つけたごみやMPの数、気づいたことなどを発表。同時に見つけたMPを電子顕微鏡でスクリーンに投影し、意見交換。
4. 全体会 講師より、マイクロプラスチックについてのお話。質疑応答



報告会の内容

<会場展示>

- ・琵琶湖の湖底ごみの状況や、「プラごみ調査隊」の活動報告についてパネル展示を行った。
- ・プラスチックごみに関するアンケートを実施した。

<ステージ発表>

- ・プラごみ調査隊に参加した小学生のうち希望した11名がステージから調査結果等を発表した。



まとめ：

琵琶湖岸3か所において調査を実施し、1㎡あたりのマイクロプラスチックが大津会場では250個、近江八幡会場では92個、彦根会場では84個あるという推計結果が得られた。本事業では、座学だけでなく調査や発表などの実体験を通した学びの場をつくることで、参加した小学生とその家族、周囲の方々に対して、その後のプラごみ削減につながる行動を喚起できたと考えている。